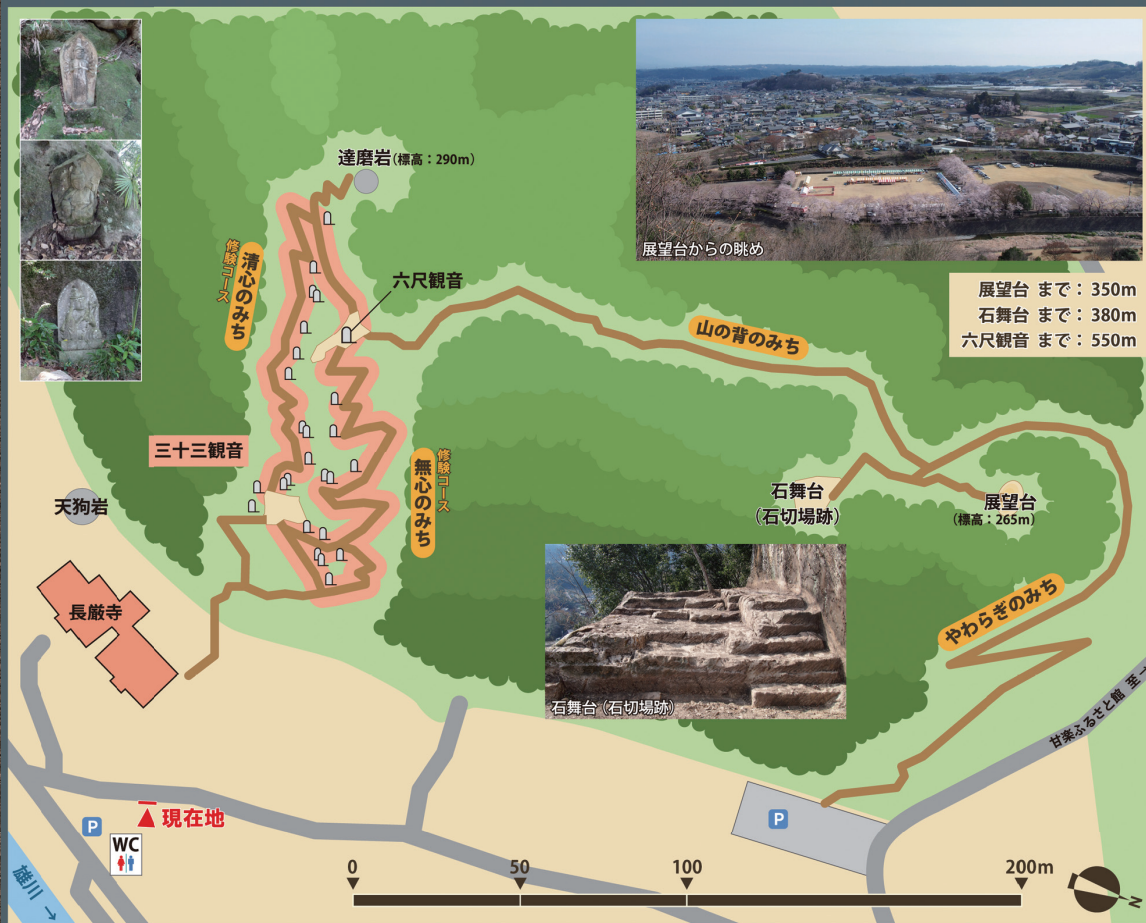


連石山トレイルコース Rensekizan trail course / 連石山 遠足路线



富岡製糸場を支えた御用石―連石山採掘場跡

官営富岡製糸場の建設にあたり、瓦・煉瓦・石材・用材等の資材調達等で、甘楽町の先人も大いに貢献しています。建築の土台に用いる石材は、長厳寺裏の連石山から切り出されました。切り出しから運搬の一切を小幡の新井永吉と茂原百一郎の兩人が請け負い、大小4000本もの石材（御用石）を切り出して建設現場に運送しました。

富岡製糸場建設責任者だった尾高惇忠から新井永吉に宛てた感謝状には「連石山の石は堅実にして永遠に耐える（中略）土木官も大いに喜び（中略）金2円50銭を寄贈して功労に感謝する」とあります。

富岡製糸場を支える御用石は、いわば絹産業の礎であり、その採掘場跡は富岡製糸場の歴史を知る上で大変貴重です。



富岡製糸場の土台石

富岡製糸場と福島瓦

製糸場で使用する瓦・煉瓦の製造一切を請け負った葺塚直次郎は、福島笹森に焼き窯を築きました。福島笹森では、旧幕時代から瓦製造を行っていましたが、大量の需要のため到底瓦職人の手が足りず葺塚の郷里である明戸村付近（埼玉県大里郡）から職人達を呼んで瓦や煉瓦を焼かせました。

この時の職人たちの多くは、任を果たすと間もなく故郷へ帰りましたが、この地に残った職人や下働きで技術を身につけた人たちが後を引継ぎ、福島瓦は地域の特産として長く栄えることとなります。



瓦の焼窯